

2013年3月期 中間決算説明会

大平洋金属株式会社

2012年11月20日

お問い合わせ先 : 総務部 (IR担当)
TEL : 03-3201-6681

ホームページURL
<http://www.pacific-metals.co.jp>

もくじ

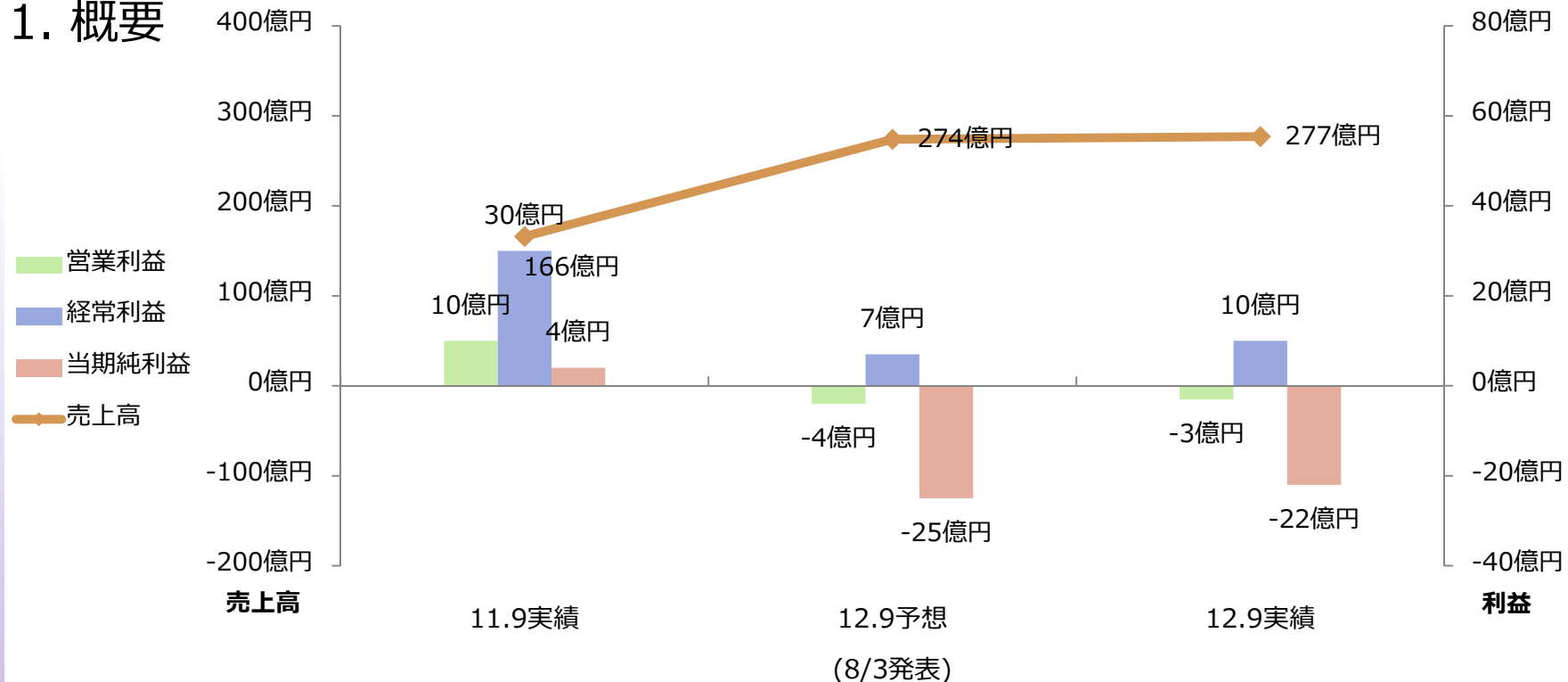
I	13.3期 中間決算及び13.3期 通期見通し	
	◆13.3期 中間決算	
	1. 概要	3
	2. ニッケル事業	4
	3. 連結経常損益の分析〔11.9実績対12.9実績〕	5
	◆13.3期 通期見通し	
	1. 概要	6
	2. ニッケル事業見通し	7
	3. 国別販売数量見通し〔12.3実績対13.3予想（新）〕	8
	4. 連結経常損益の分析〔12.3実績対13.3予想（新）〕	9
II	今後のニッケル需給の見通しについて	
	1. LMEニッケル価格（CASH）とLMEニッケル在庫数量推移	11
	2. 世界のステンレス生産とニッケル需給	12
	3. 地域別ステンレス・ニッケル需給見通し	13
III	経営課題への取組み	
	◆投資内容	15
	◆安定した鉱石調達への取組み	
	1. ニッケル鉱石安定調達策	16～17
	2. 「ウェダベイ」ニッケルプロジェクトと湿式精錬について	18
	3. 湿式製錬への取組み	19



I 13.3期中間決算
及び 13.3期通期見通し

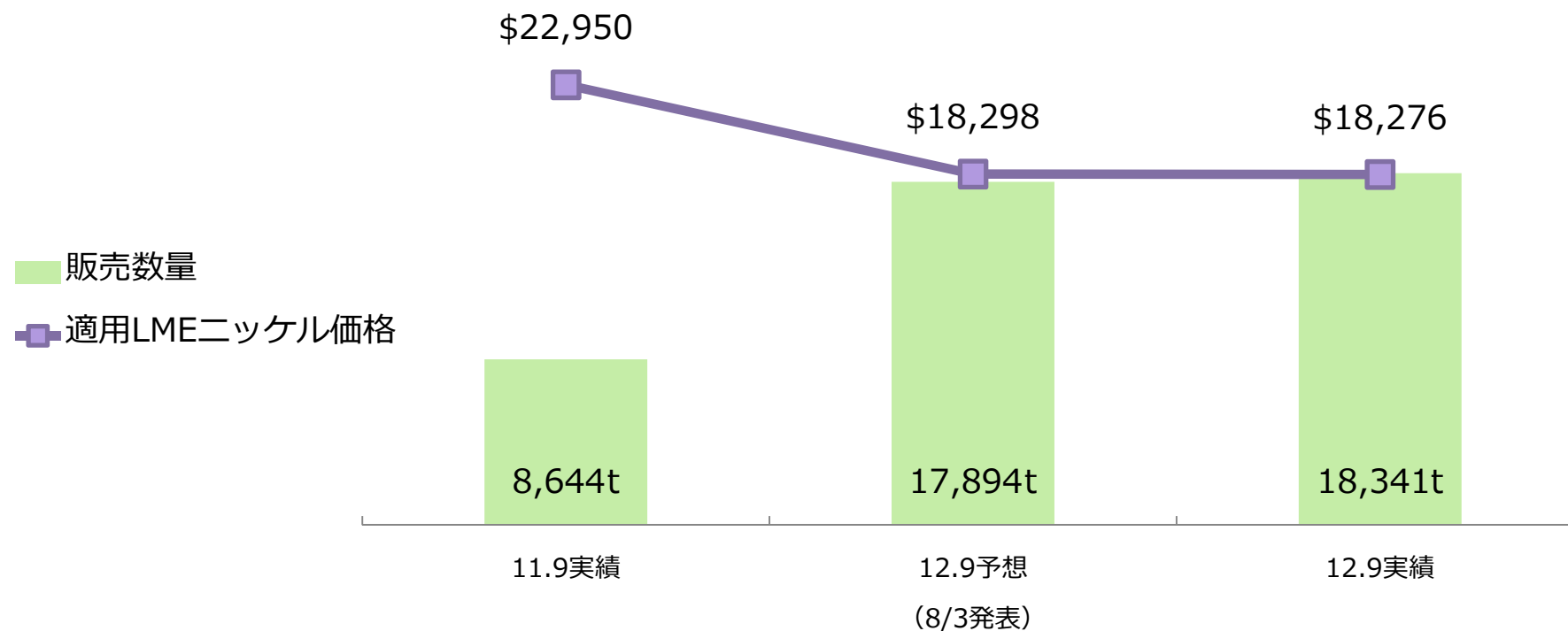
◆ 13.3期 中間決算

1. 概要



金額単位；百万円	11.9実績		12.9予想 (8/3発表)		12.9実績		対前年同期比 (%)	対8/3発表予想比 (%)
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率		
売上高	16,699	-	27,417	-	27,784	-	66.4	1.3
営業利益	1,098	6.6	△497	△1.8	△ 312	△ 1.1	-	-
経常利益	3,074	18.4	734	2.7	1,088	3.9	△ 64.6	48.2
当期純利益	484	2.9	△2,586	△9.4	△ 2,299	△ 8.3	-	-
(投資額)	2,159	-	-	-	839	-	△61.1	-
(減価償却費)	3,138	-	-	-	3,469	-	10.6	-

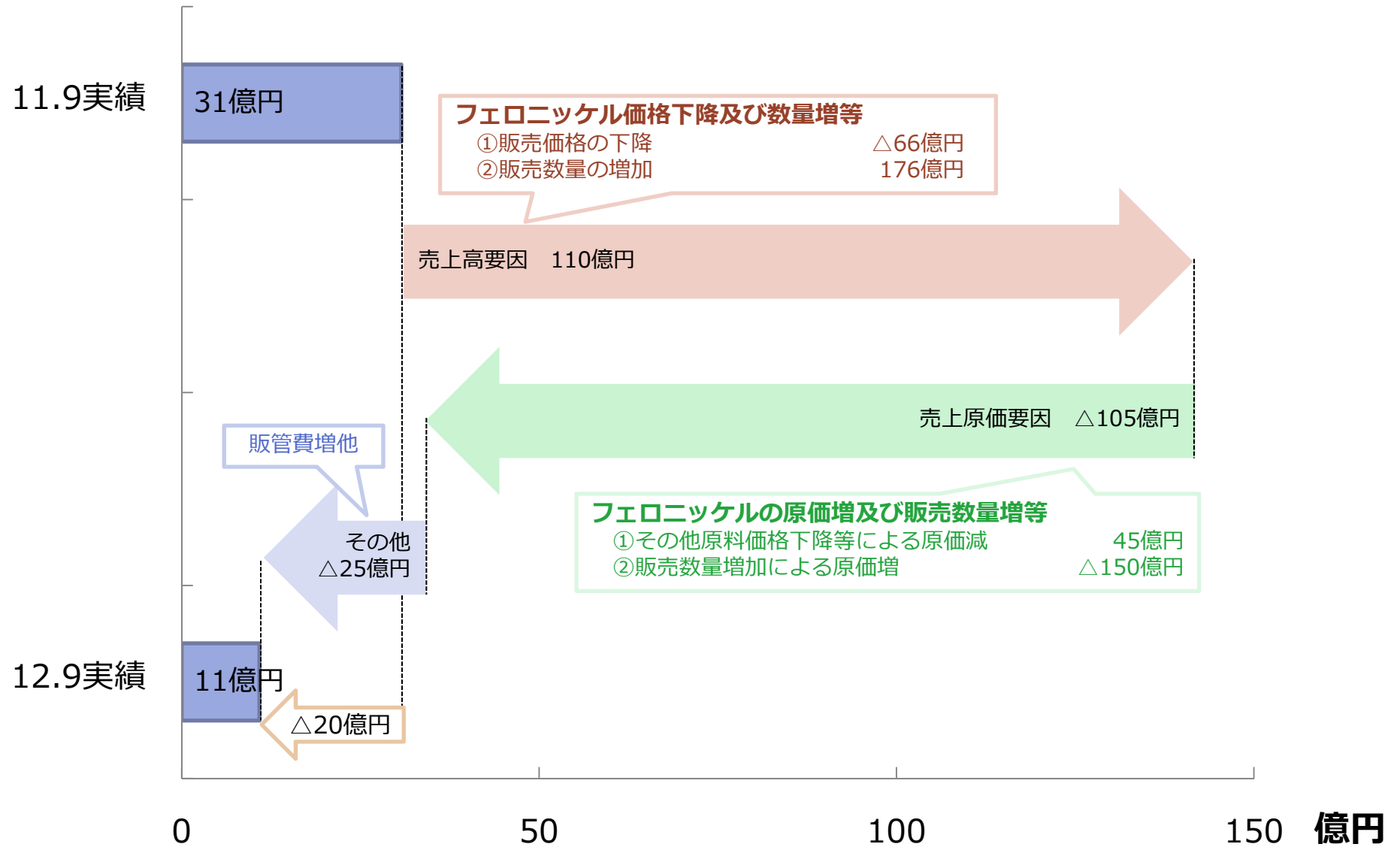
◆13.3期 中間決算
2. ニッケル事業



	11.9実績	12.9予想 (8/3発表)	12.9実績	対前年同期比 (%)	対8/3発表 予想比(%)
生産数量(Ni ^t)	11,834	—	18,577	57.0	—
販売数量(Ni ^t)	8,644	17,894	18,341	112.2	2.5
適用LME (\$/t)	22,950	18,298	18,276	△ 20.4	△ 0.1
【適用LME(\$/lb)】	【10.41】	【8.30】	【8.29】		
適用為替 (¥/\$)	78.59	79.60	79.13	0.7	△ 0.59

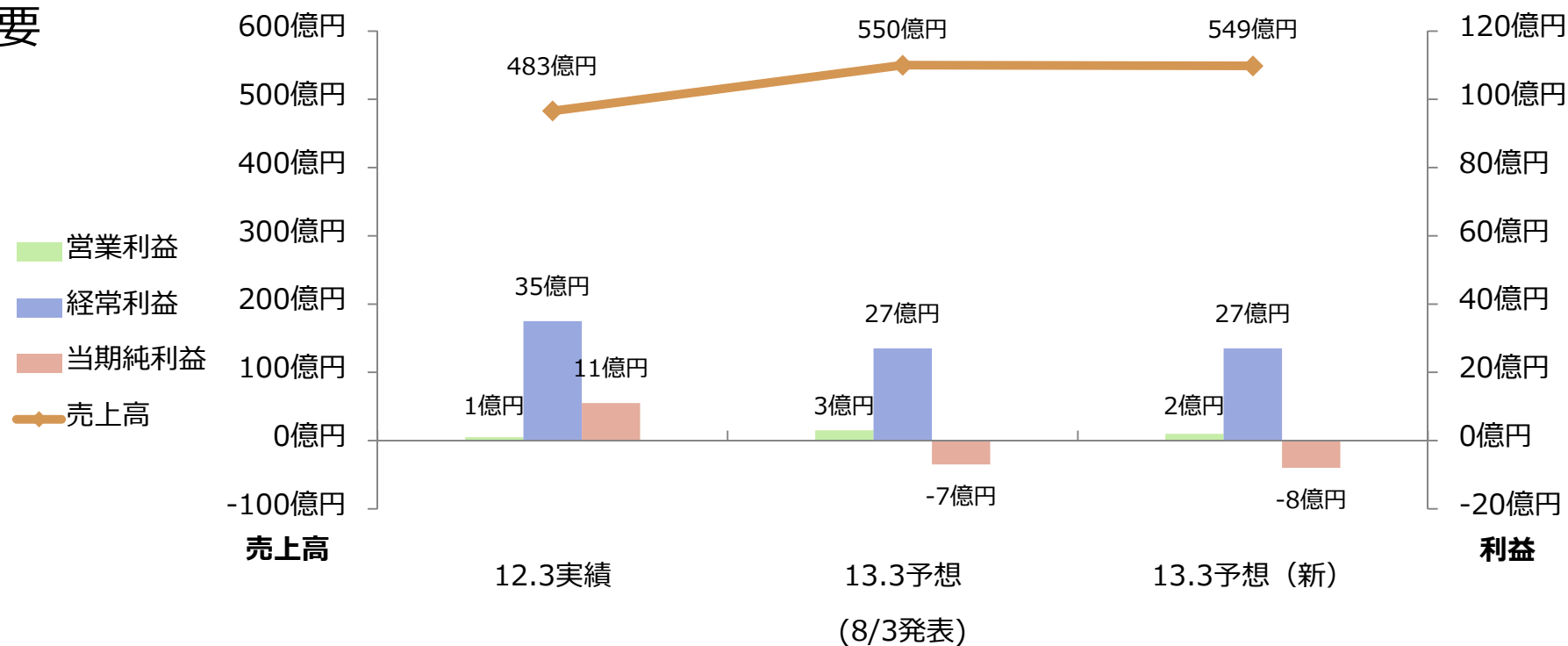
◆13.3期 中間決算

3.連結経常損益の分析〔11.9実績対12.9実績〕



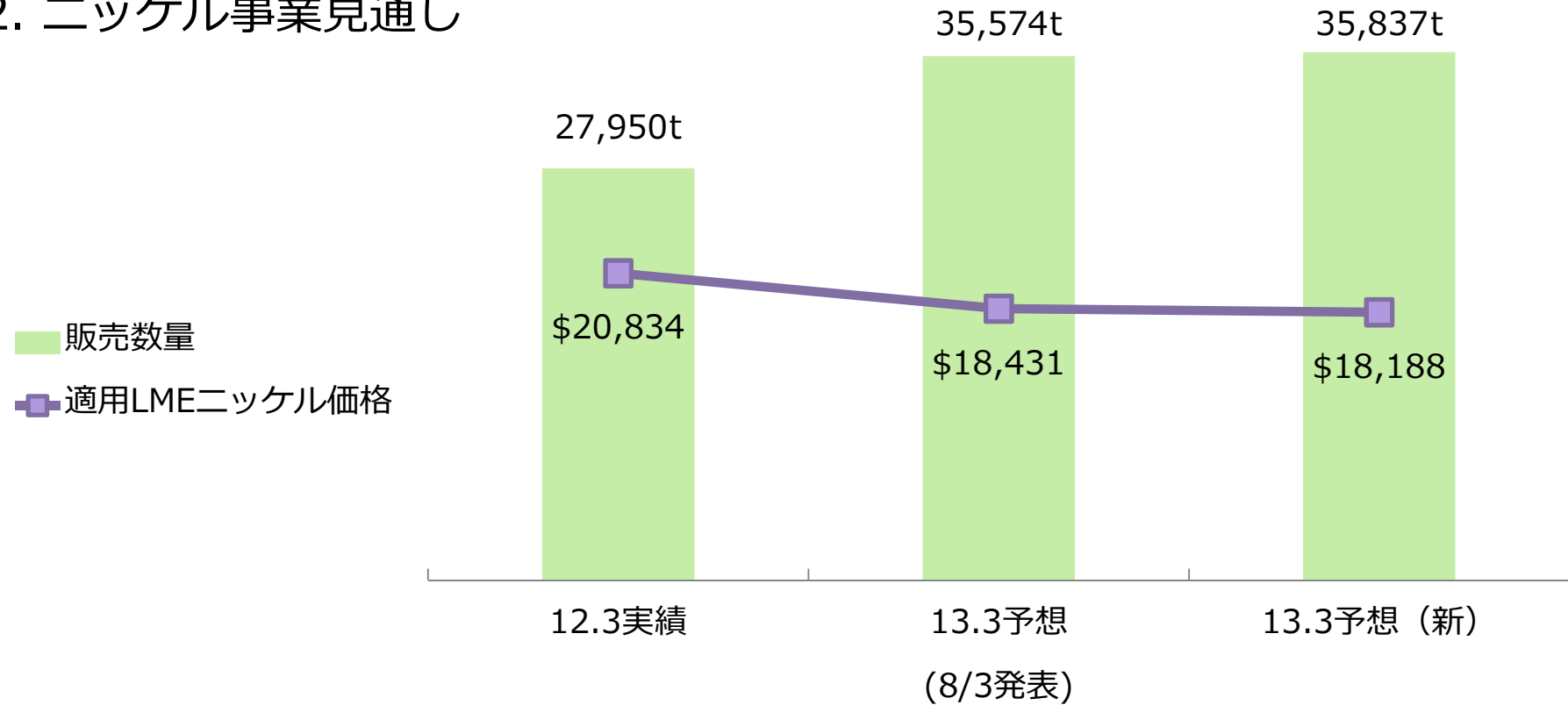
◆ 13.3期 通期見通し

1.概要



金額単位；百万円	12.3実績		13.3予想 (8/3発表)		13.3予想 (新)		対前期比 (%)	対8/3発表予想比 (%)
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率		
売上高	48,330	-	55,006	-	54,904	-	13.6	△ 0.2
営業利益	154	0.3	384	0.7	271	0.5	76.4	△ 29.4
経常利益	3,524	7.3	2,758	5.0	2,763	5.0	△ 21.6	0.2
当期純利益	1,175	2.4	△718	△1.3	△862	△1.6	-	-
(投資額)	12,019	-	-	-	6,028	-	△ 49.8	-
(減価償却費)	6,375	-	-	-	7,043	-	10.5	-

◆ 13.3期 通期見通し
2. ニッケル事業見通し

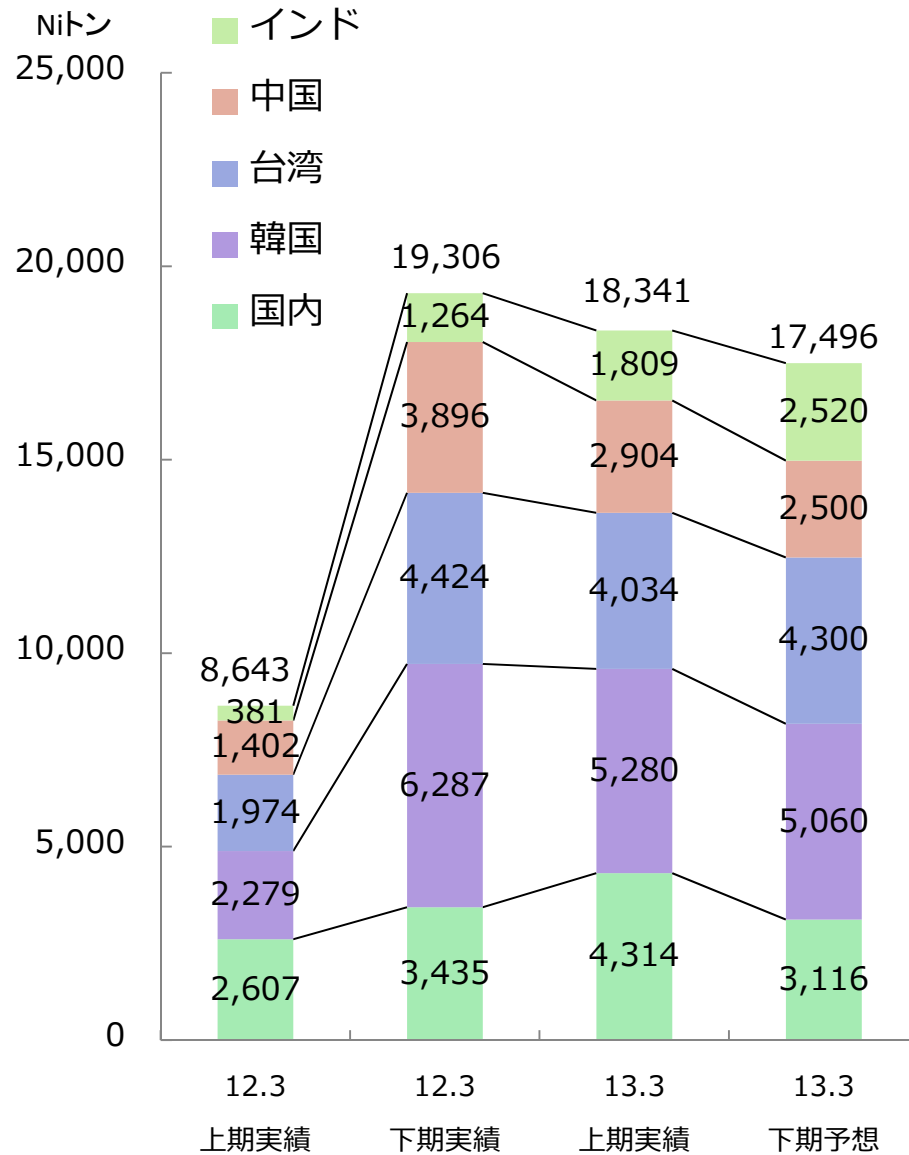


	12.3実績			13.3予想 (8/3発表)	13.3予想 (新)			対前期比 (%)
	上期	下期	通期		上期	下期	通期	
生産数量(Ni ^{t>})	11,834	16,940	28,774	—	18,577	19,960	38,537	33.93
販売数量(Ni ^{t>})	8,644	19,306	27,950	35,574	18,341	17,496	35,837	28.22
適用LME (\$/t)	22,950	19,886	20,834	18,431	18,276	18,100	18,188	△ 12.70
【適用LME(\$/lb)】	【10.41】	【9.02】	【9.45】	【8.36】	【8.29】	【8.21】	【8.25】	
適用為替 (¥/\$)	78.59	77.86	78.08	79.52	79.13	79.22	79.17	1.40

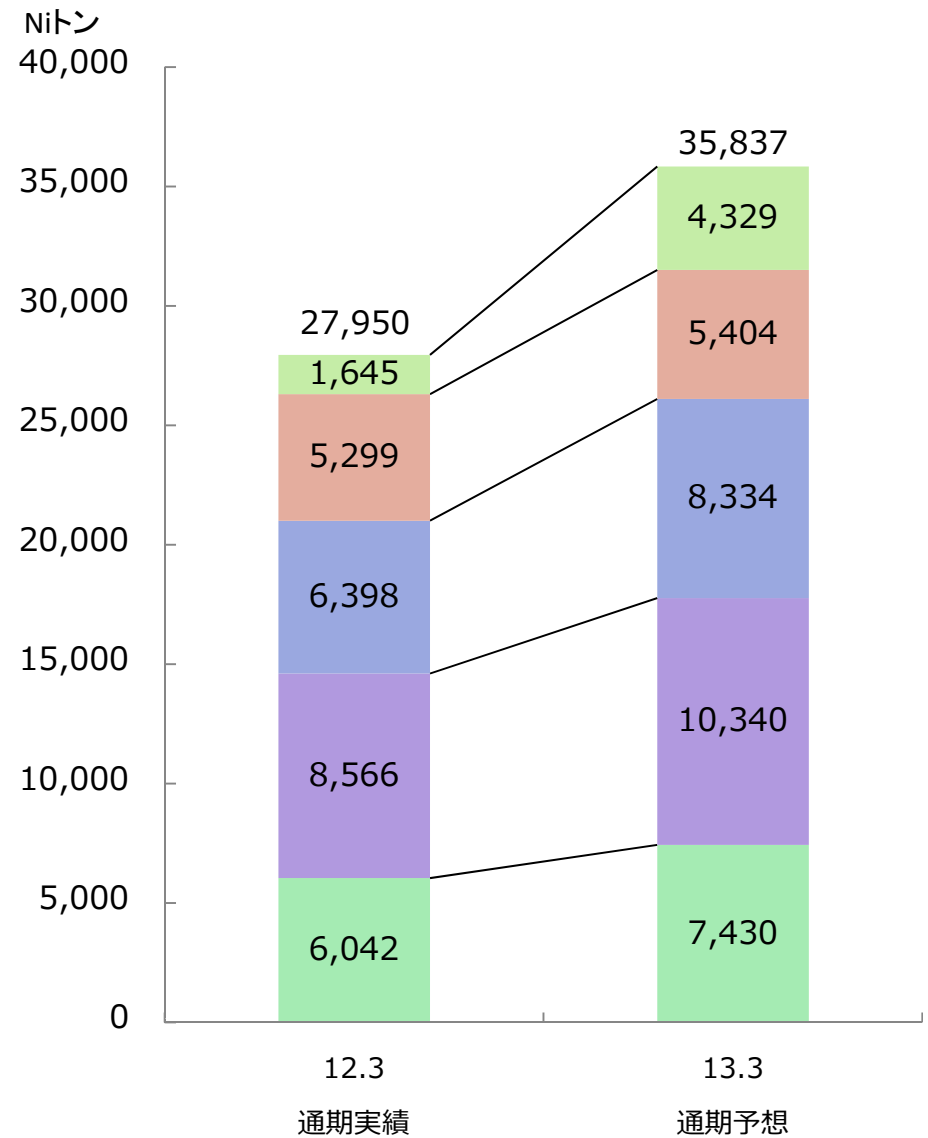
◆ 13.3期 通期見通し

3. 国別販売数量見通し〔12.3実績対13.3予想（新）〕

12.3期実績～13.3期予想推移（半期）

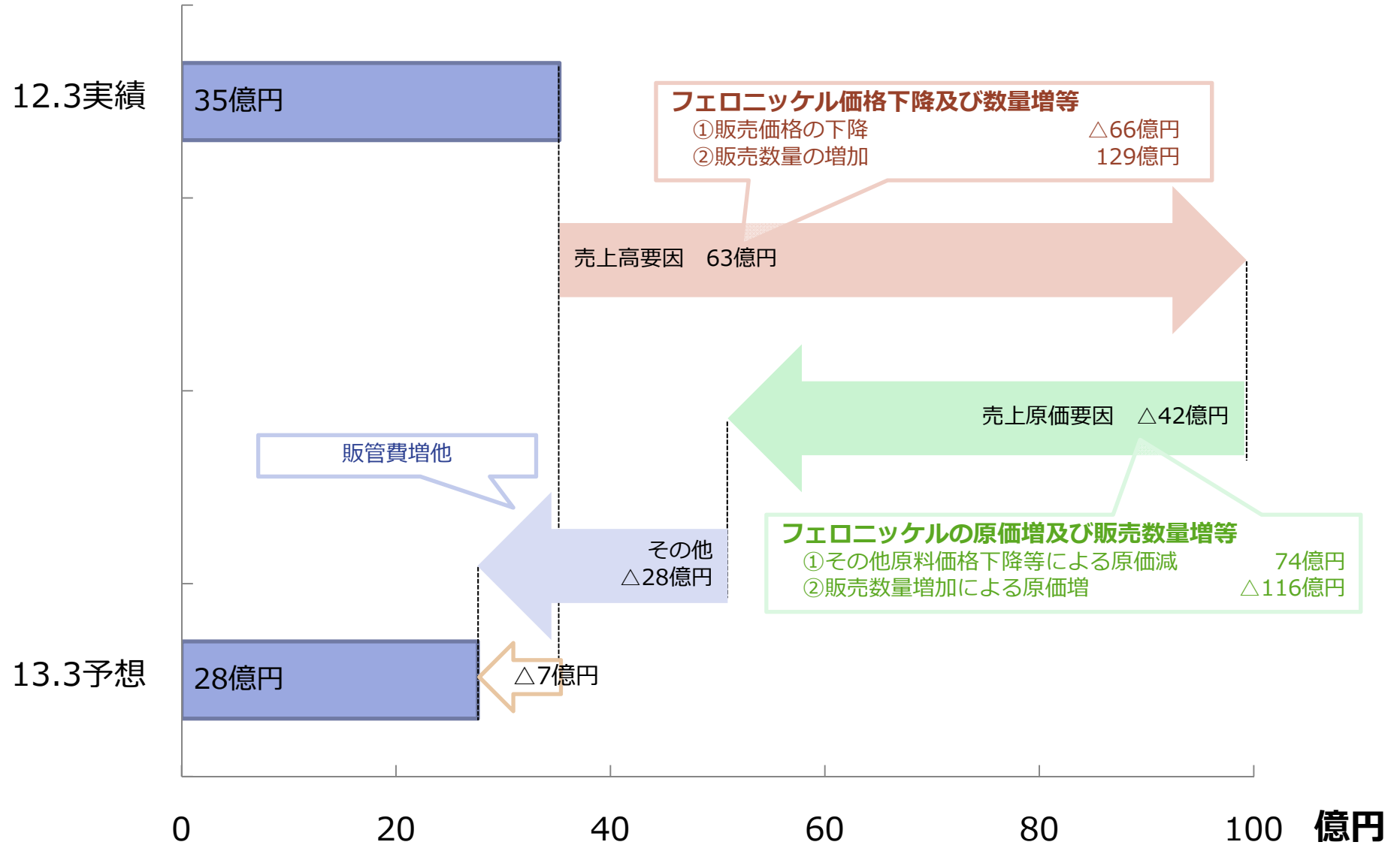


12.3期実績～13.3期予想推移（通期）



◆ 13.3期 通期見通し

4. 連結経常損益の分析〔12.3実績対13.3予想（新）〕

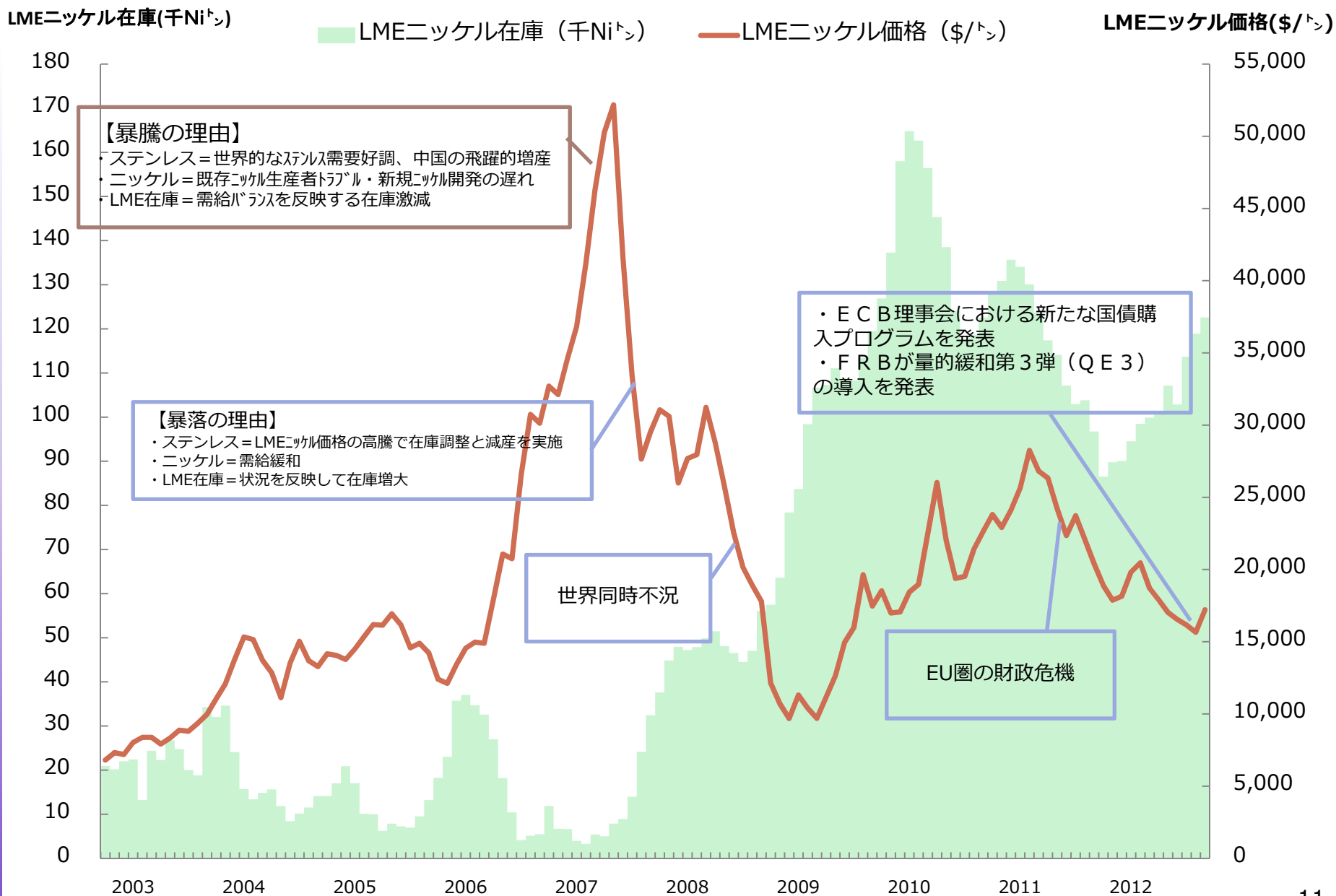




Ⅱ 今後のニッケル需給の見通しについて

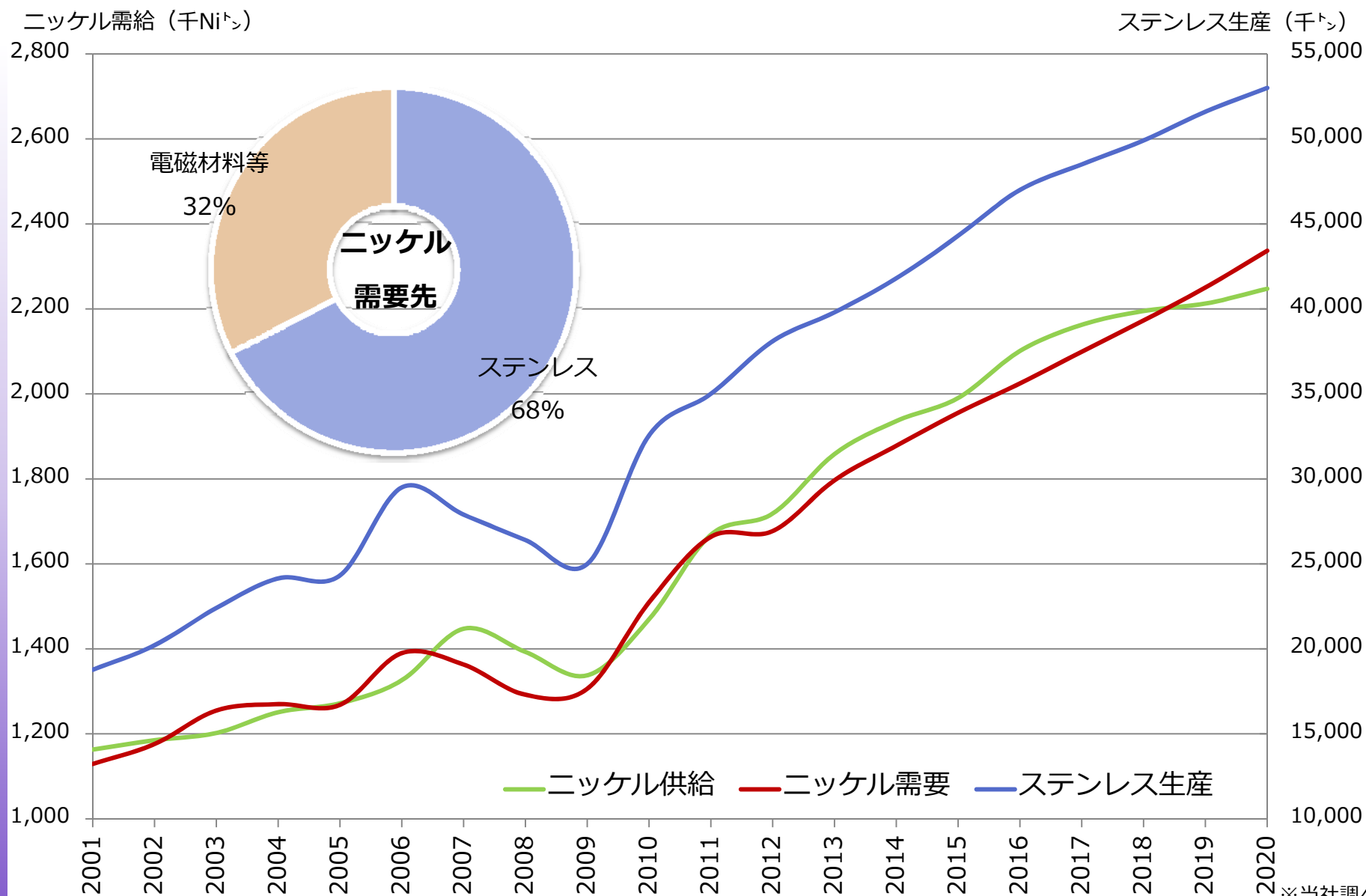
◆今後のニッケル需給の見通しについて

1. LMEニッケル価格(CASH)とLMEニッケル在庫数量推移(2002年～2012年)



◆今後のニッケル需給の見通しについて

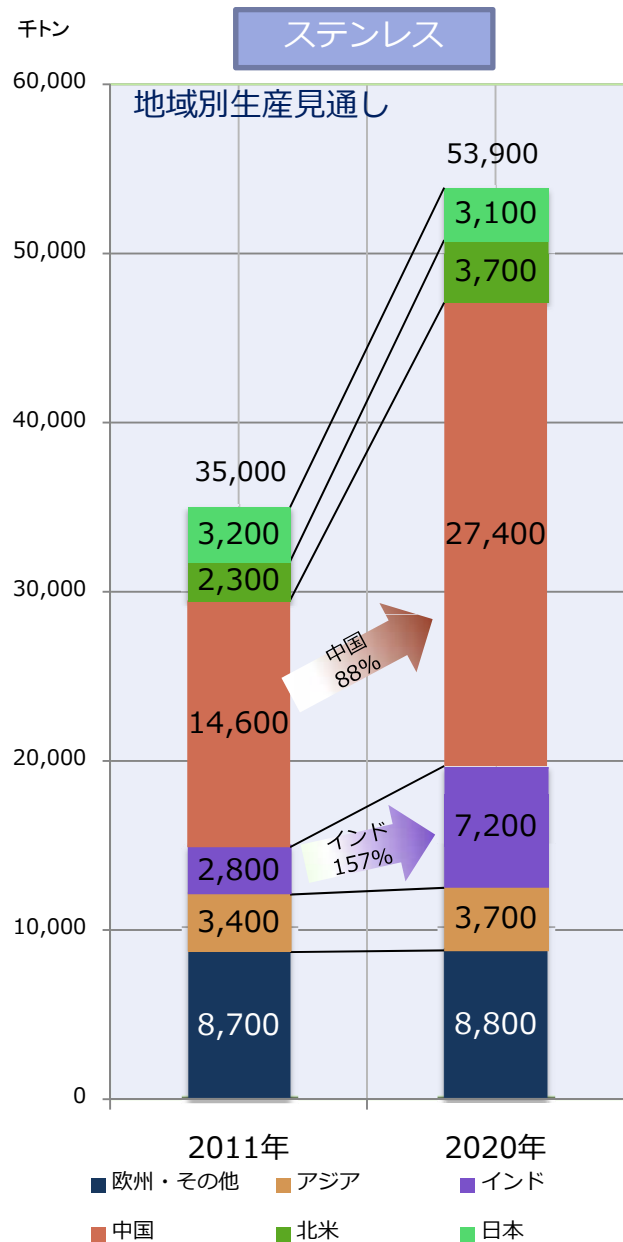
2. 世界のステンレス生産とニッケル需給



※当社調べ

◆今後のニッケル需給の見通しについて

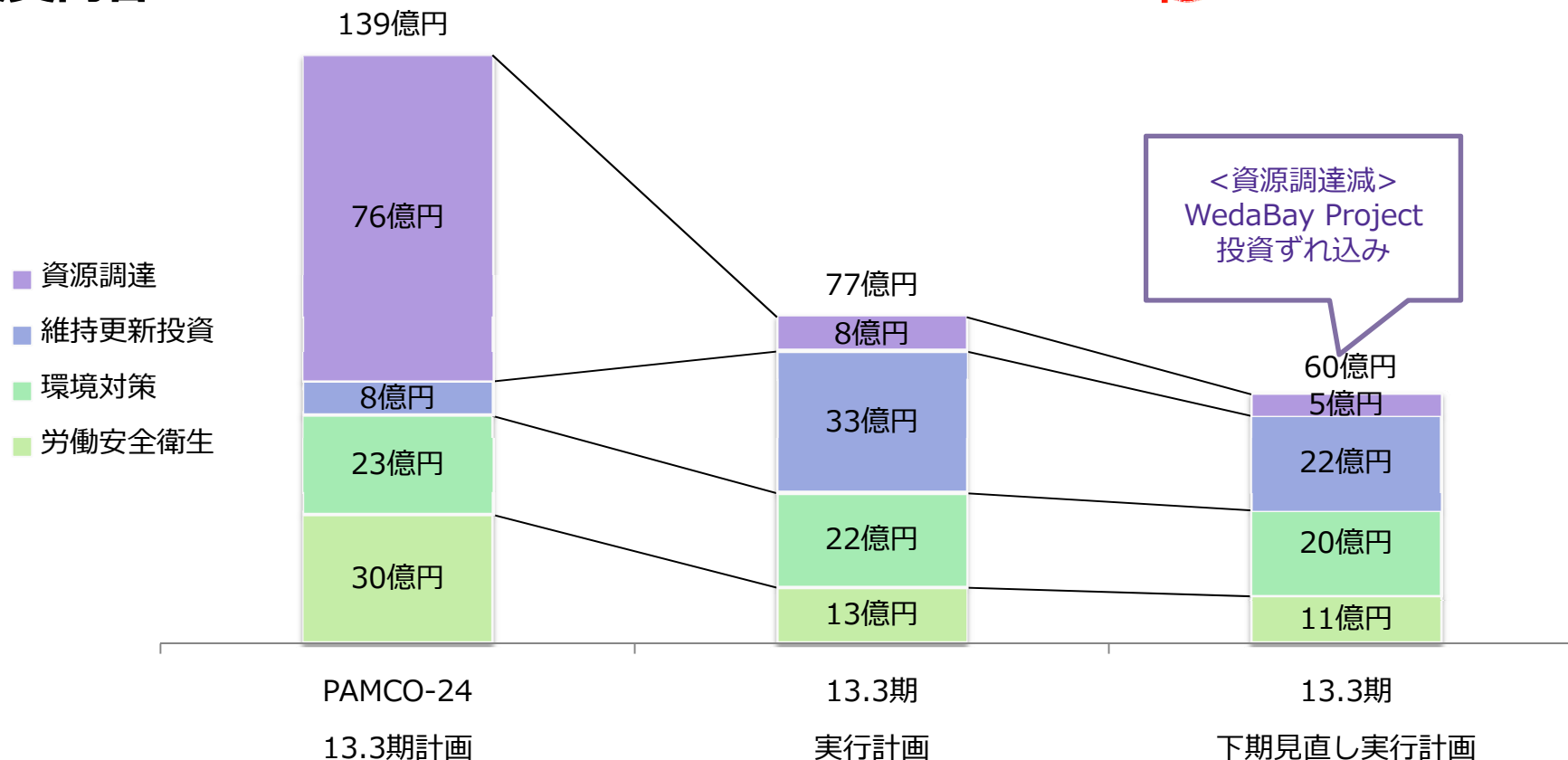
3.地域別ステンレス・ニッケル需給見通し





Ⅲ 経営課題への取り組み

◆投資内容



単位:百万円	PAMCO-24 13.3期計画	13.3期 実行計画	13.3期 下期見直し計画	PAMCO-24との 比較	実行計画との 比較
労働安全衛生	3,080	1,301	1,177	△1,903	△124
環境対策	2,330	2,238	2,068	△262	△170
維持更新投資	880	3,369	2,209	1,329	△1,160
資源調達	7,632	861	575	△7,057	△286
合計 (工事ベース)	13,922	7,769	6,028	△7,894	△1,742

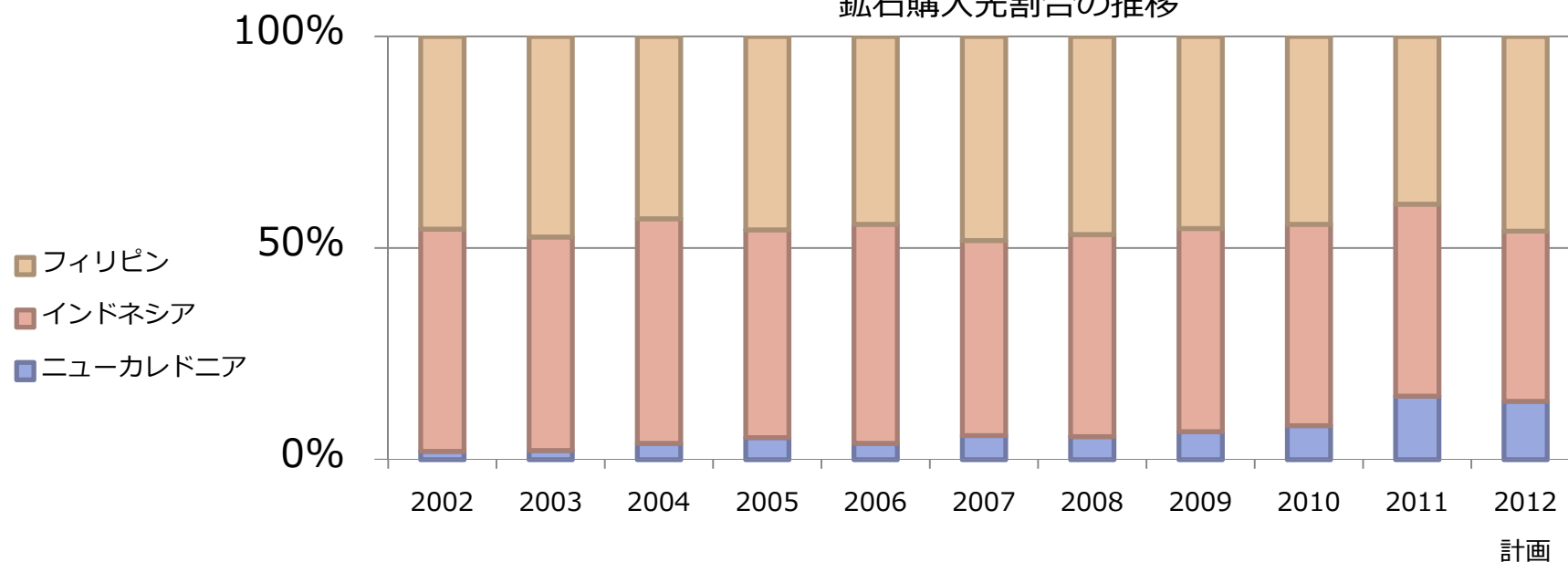
◆安定した鉱石調達への取組み

1. ニッケル鉱石安定調達策-1

長期購入契約締結（随時更新）

購入先	09年 3月期	10年 3月期	11年 3月期	12年 3月期	13年 3月期	14年 3月期	15年 3月期	16年 3月期	17年 3月期	
<フィリピン> リオ・チバ・ニッケル社 出資	11年1月～15年12月（5年間）									
<フィリピン> タガニート社 出資	11年1月～15年12月（5年間）									
<フィリピン> カグジャナオ社	11年1月～15年12月（5年間）									
<インドネシア> アンタム社	07年6月～14年5月（7年間）							インドネシアの新鉱業法施行予定		
<ニューカレドニア> モンタニア社	06年4月～16年3月（10年間）									

鉱石購入先割合の推移



◆ 安定した鉍石調達への取組み

1. ニッケル鉍石安定調達策-2

フィリピンの鉍山開発状況

- リオチバ、タガニートを中心として鉍山開発を進めている

インドネシアの鉍山開発状況

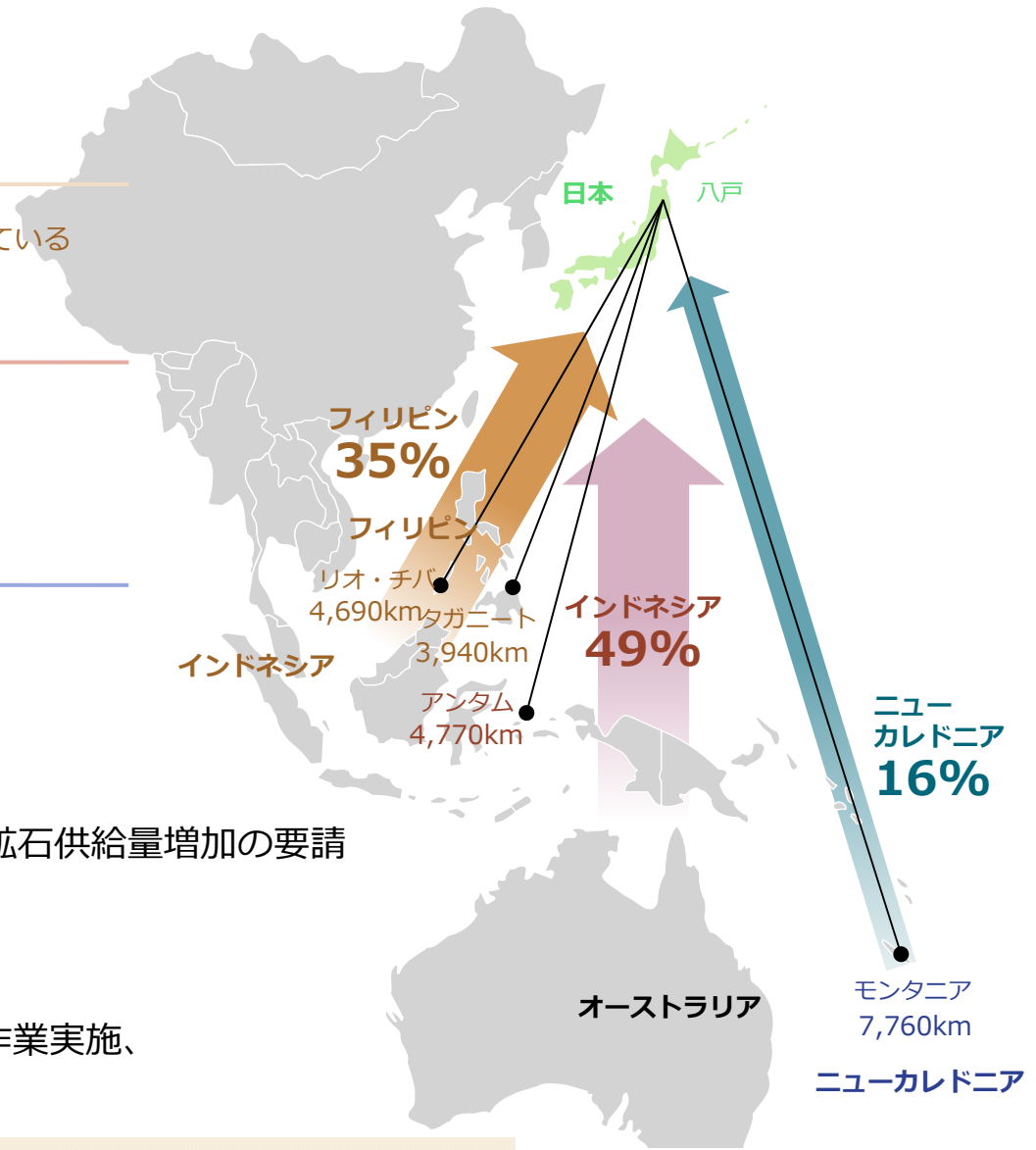
- アンタム社が鉍山開発
- 安定した鉍山操業のための技術協力

ニューカレドニアの鉍山開発状況

- SMGM社が探鉍継続
- 当社は技術支援をしている

新鉍業法に対する当社の主な対策

- フィリピン、ニューカレドニアへの鉍石供給量増加の要請
- 新規調達先の開拓
 - 複数の新規調達先と交渉中
 - うち数社とは、テスト出荷を実施
 - 数社とは、探鉍契約締結し、探鉍作業実施、鉍山開発へと進行中



以上により、2014年以降についても鉍石調達の目途は立ちつつある。

◆安定した鉱石調達への取組み

2. 「ウェダベイ」 ニッケルプロジェクトと湿式製錬について

「ウェダベイ」 ニッケルプロジェクト（インドネシア）

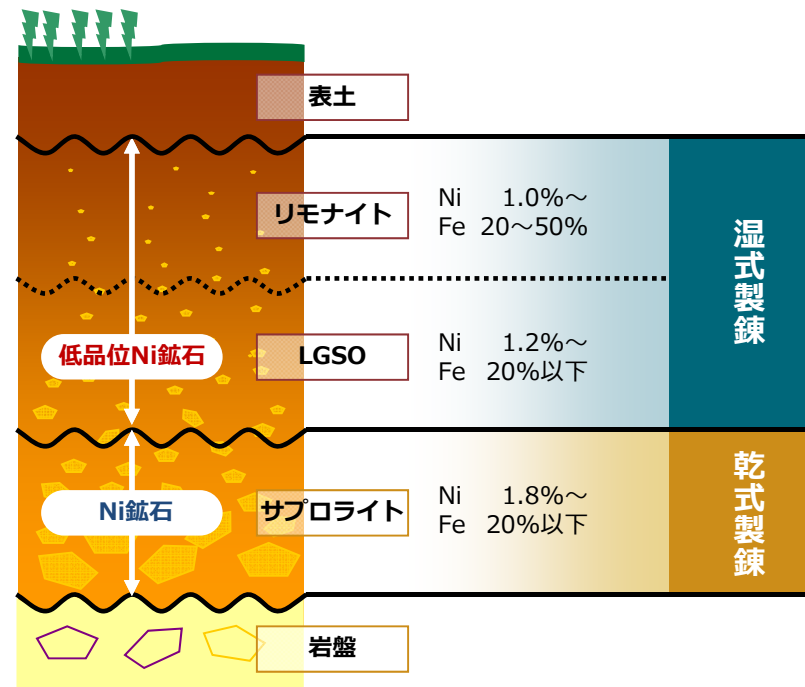
当社と同じ常圧浸出法を採用する計画

インドネシア ハルマヘラ島の「ウェダベイ」鉱床には、世界有数の大規模で未開発のニッケルが埋蔵されており、最新の調査より鉱物資源量は合わせて630万トンにも上ります。湿式精錬を採用して、最終的には年間6.5万トンのニッケル生産を目標としています。



湿式製錬について

酸化ニッケル鉱石別製錬法




低品位鉱石 → 濃縮中間製品

湿式製錬とは、化学処理によるニッケルの濃縮・抽出方法。現地山元で湿式製錬し、品位を上げた中間製品を八戸で乾式製錬することにより低品位鉱石を活用可能。

◆安定した鉍石調達への取組み

3. 湿式製錬への取組み

2012年11月、パイロットプラントによる常圧浸出技術の確定を目指す

		STEP 1	STEP 2	STEP 3
期間		～2010年3月	2010年4月～2011年3月	2011年4月～2012年11月（計画）
自社の湿式	目標	<ul style="list-style-type: none"> パイロットプラントの完成（投資額88億円） 	<ul style="list-style-type: none"> 硫酸使用による中間製品実証試験開始 各種点検方法の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 中間製品化の確立 当社常圧浸出技術の確定 環境基準のクリア 各種点検方法の確立
	成果・課題	 <p>鉍石スラリータンクとNi浸出反応装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社プロセスの特徴であるリモナイト鉍石と低品位サブプロライト鉍石の全量処理を確認 Ni中間製品もFeNi原料として使用可能な濃縮水酸化ニッケルが確認 排液環境基準値の達成も確認 	<ul style="list-style-type: none"> 震災の影響により施設が損傷し当初計画より遅れるが、当社の常圧浸出技術確立へ向け進行中 2011年8月末、震災復旧と設備改善を完了 2011年9月から鉍石と硫酸を使用した立ち上げを開始、順調に推移 今後、パイロットプラントの安定操業を実施し、各種プロセスデータを取得していく
WedaBay			<ul style="list-style-type: none"> 2012年度までにBFS完了予定 2013年前半に最終意思決定 生産開始までに数年 	

最終目標

中間製品の安定供給

Lined area for writing the memo.

大平洋金属株式会社

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいますようお願いいたします。
本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します